

「情報処理学会論文誌：教育とコンピュータ」の編集にあたって

林 雄介^{1,a)}

1. 第4号刊行にあたって

これまでの号で TCE の目的や編集方針を紹介してきましたが、その中で TCE の特徴的な点の1つであり、編集委員会で積極的に活用しようと意識しているのは、第1号で紹介された、複数回の照会を可能にする点です。

そして、本号の掲載論文には、これを実践して3回の照会を行った上で採録が決まった論文もあります。投稿から掲載までに時間はかかってしまったのですが、著者、査読者ともに根気よく再投稿と査読を繰り返していただき、採録となりました。一般的に他の学会の論文誌では、多くても2回までの照会しか許されておらず、最後の回にはもう一步の状態でも返戻とせざるを得ませんが、本論文誌ではそこからさらに論文を良いものとしていただくための査読を継続することが可能です。本論文誌では記事を書きなれていない方々にも積極的に投稿していただきたいという想いもあり、このように各回の査読の丁寧さだけでなく、査読の回を重ねることで、読者にとって有益な内容を積極的に取り上げる方針となっていますので、ぜひ躊躇せずにご投稿していただければと思います。

2. 本号掲載論文の紹介

本号では、放送大学の山田恒夫先生による招待論文1編を含む10編の記事を掲載しています：

- 招待論文「MOOC と学習解析：教育革新のための情報基盤に向けて」は、学習情報ビッグデータを視野に入れた MOOC での学習解析の試みについて概観するとともに、現在の課題を整理したものです。
- 「フィジカル・インタラクションを使ったプログラミング学習のための教材開発と実践」は、インタラクティブなメディアコンテンツの作成を通じて、デジタル技術を表現手段とした造形基礎学習とプログラミング学習の双方の目的を持つ教育プログラムを提案し、その実践と効果を報告しています。
- 「小学校1年生におけるタブレット端末を活用した授業

実践と評価」は、小学1年生のクラスで継続的にタブレット端末を利用して学習を進めた実践から、学習における理解や意識、学習スタイルの変容、児童の ICT スキルの向上について分析、評価しています。

- 「不正コピー検出手法を備えたオンラインジャッジシステムの開発」は、プログラミング課題で提出されるソースコードの不正コピー検出のためにトークンベースのコードクローン検出手法を提案し、従来の手法との比較と教育現場での有効性を検証しています。
- 「情報系演習向け演習支援システム」は、情報系演習においてキー入力のログ記録と電子的コピーできないエディタを備えた演習支援システムを開発し、教育現場での実践から有効性を検証しています。
- 「児童や生徒に関する教職員の気づきを収集・共有・活用できるシステムの開発」は、既存の学校グループウェアでは考慮されていない児童や生徒に関する教職員の気づきに注目し、それらを即時に収集し、教職員で共有・活用することを支援するシステムを開発し、実験的な利用によって、その有効性を検証しています。
- 「情報基礎」におけるビデオ講義を用いた反転授業の評価」は、情報基礎科目において反転授業を実施し、従来型の講義での課題や試験の成績を比較することで、反転授業の有効性を検証しています。
- 「PenFlowchart を用いた、フローチャートによるプログラミング学習の効果に対する評価」は、初心者用プログラミング学習環境 PEN にフローチャートからソースコードを生成する機能を拡張し、高校生を対象として行った実践からその有効性を検証しています。
- 「大学生アンケートからの文系理系学生の特徴に関する分析」は、大学生を対象としたアンケート調査の結果を利用して、データマイニング手法を用いて文系・理系への進路選択と関連のある要因や文系・理系学生それぞれの日常の傾向についての分析を行っています。
- 「フィジカルプログラミングを用いた初心者向けプログラミング学習システムの開発」は、タンジブルユーザインタフェースを利用した物理的ブロックを用いたプログラミング学習環境を開発し、実験的な利用を通じて、その有効性を検証しています。

¹ 広島大学大学院工学研究科
Graduate School of Engineering, Hiroshima University,
Higashihiroshima, Hiroshima 739-8527 Japan

a) hayashi@lel.hiroshima-u.ac.jp